



登録速報（新規登録）

農薬名： Dr. オリゼリディア箱粒剤
登録番号： 第24239号
登録日： 2019年6月27日

登録内容

・適用病害虫の範囲及び使用方法

| 作物名 | 適用病害虫名 | 使用量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 70% リンを含む農薬の総使用回数 | 70% ガーを含む農薬の総使用回数 |
|------------|--|---|----------------|---------|-----------------|--|-----------------------------|
| 稲 (箱育苗) | いもち病 イネドロオイムシ イネミスゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イナゴ類 | 育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g | 移植3日前 ～移植当日 | 1回 | 育苗箱の上から均一に散布する。 | 3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、 本田では 2回以内) | 2回以内 (移植時までの処理は 1回以内) |

・使用上の注意事項

- (1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、十分灌水すること。
- (2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- (4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。

- (7) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (8) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (9) 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。